

Experience-Based Evidence

首里城公園

第39回 日本血管外科学会学術総会

日時：2011年 4月20日(水)～4月22日(金)

会場：沖縄コンベンションセンター・ラグナガーデンホテル

会長：琉球大学大学院 胸部心臓血管外科学講座 教授 國吉 幸男



“第39回 日本血管外科学会学術総会”が、4月20日～22日に開催されます。

当院からは、
血管外科 今井 崇裕 先生
が、**演題「慢性透析患者の下肢虚血壊死に対する切断術症例の検討」**の学術発表をされますので、ご紹介いたします。



日時：2011年 4月20日(水)～4月22日(金)

会場：沖縄コンベンションセンター・ラグナガーデンホテル

会長：琉球大学大学院 胸部心臓血管外科学講座 教授 國吉 幸男



— 抄 録 —

「慢性透析患者の下肢虚血壊死に対する切断術症例の検討」

今井崇裕¹ 齊藤精久² 青木昭美³ 武井誠² 植田康夫⁴ 吉岡伸夫² 高比康臣²

1 西の京病院 血管外科

2 西の京病院 内科

3 西の京病院 透析センター

4 西の京病院 整形外科

要旨：

【目的】慢性透析患者の下肢虚血壊死に対して行った切断術症例の背景因子と予後について検討した。

【対象および方法】2005年4月から2007年3月の3年間に当院で虚血性壊死に対して下肢の切断術を受けた25例29肢であり、そのうち慢性透析患者15例19肢を対象とした。15例は全て糖尿病性腎症によるものであった。男性9例、女性6例で、平均年齢は64.1歳であった。臨床的観察項目は年齢、性別、HD歴、切断高位、Alb値、HbA1c値とした。

retrospectiveに解析して、項目別に各群をKaplan-Meier法による生存率を用いて比較検討した。

【結果】慢性透析患者の生存率は1年46.6%、2年6.6%、3年0.0%と生命予後が不良であった。年齢は ≤ 65 歳が7例、 > 65 歳が8例であった。性別は男性9例、女性6例であった。HD歴は ≤ 3 年が8例、 > 3 年が7例であった。切断高位はminorが10例、AKA/BKAが5例であった。Alb値は $\text{Alb} \leq 3.7\text{g/dL}$ が11例、 $> 3.7\text{g/dL}$ が4例であった。HbA1c値は $< 6.0\%$ が8例、 $\geq 6.0\%$ が7例であった。

【結語】3年間の当院における慢性透析患者の下肢虚血壊死に対して行った切断術症例の検討を行った。糖尿病性腎症による透析例では生命予後が不良であり、短い生命予後を想定し、成績向上のために基礎疾患の適切な治療と下肢虚血の早期発見が必要である。